

生け垣(Hedge) :

生け垣は、背の低い植物による人工的な垣根を表しています。

pB2-C3のような、太い緑色の線を含むヘクスサイドが生け垣ヘクスサイドです。

地形のイラストと同様に、ヘクスサイド(頂点も含む)も生け垣を表しており、そこを通過するLOSに影響を与えます。

LOS : 生け垣ヘクスサイドは、同一高度レベル間のLOS に対する障害物です。ただし、生垣ヘクスサイドが射撃側あるいは目標側のヘクスの一部である場合には障害物とみなされません。LOSが完全に生け垣に沿っているのであれば、以下の場合のみ障害物とみなされます。すなわち、その生け垣が視認側もしくは目標側ヘクスの『ヘクスの足』(そのヘクスの頂点から延びる、2つの隣接ヘクスの共有ヘクスサイド)ではない場合。もしくは視認側あるいは目標側ヘク

スの『ヘクスの足』ではあるが、その生け垣を挟んで反対側の頂点を成す3本の『ヘクスの足』全部が生け垣の場合です。

TEM : 目標ヘクスに生け垣ヘクスサイドがある場合、そのヘクスサイドを通過するLOSによる射撃に対しては、+1のTEMが適用されます。同様に、目標ヘクスにつながるヘクスの足が生け垣の場合、そのヘクスの足に沿ったLOSによる射撃に対しては、+1のTEMが適用されます。ただし、DCおよび迫撃砲の攻撃に対しては、生け垣のTEMは適用されません。しかし、開豁地ではなくなるため、迫撃砲の攻撃に対するFFMOの適用や阻止は無効になります。生垣のTEMは、そのヘクスの中にある他のプラスのTEM (AFVや残骸、設置TEMも含む)とは累積しませんが、空中炸裂は適用されます。もし両陣営の統制状態のユニットが生け垣ヘクスサイドを挟んで隣接した場合、『確保 (Wall/Hedge Advantage ; WA)』を有する一方の陣営のみが、生け垣越しに隣接した敵から射撃を受けた場合にも、生け垣

のTEMを主張できます。生け垣の一方の側のヘクスにいる統制状態のユニットは、反対側に敵の統制状態のユニットがないのなら、その生け垣のWAを取ったと見なされます。その後、反対側のヘクスに統制状態の敵ユニットが進入してきても、WAは維持されます。WAを失うのは、そのヘクス内の自軍ユニットがすべて統制状態ではなくなり、生け垣の反対側に統制状態の敵ユニットがいる場合です。この場合、その統制状態の敵ユニットがWAを得ることになります。

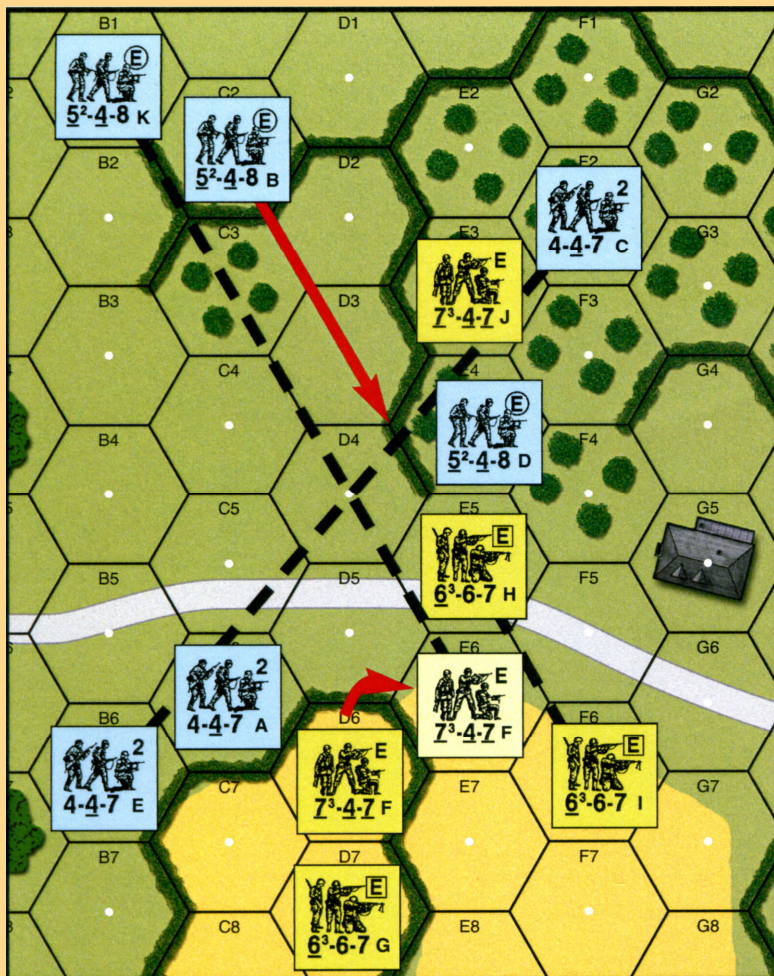
移動 : 歩兵が生け垣ヘクスサイドを通過する際の移動コストは、進入先ヘクスのCOT+1MFです。完全装軌式車両が生け垣ヘクスサイドを通過する際の移動コストは、進入先ヘクスのCOTに加え、+1MPを消費します。装甲車が生け垣ヘクスサイドを通過する際は、進入先ヘクスのCOT+3MPを消費し、さらにボグ判定を必要とします。ボグ判定に失敗した装甲車は、離れようとしたヘクスでボグ状態となります。

生け垣の例 (下図を参照) :

麦畑の効果がある季節です。アメリカ軍F分隊は、ドイツ軍A分隊が生け垣へ隣接(C6に進入)して行く前にすでに生け垣に隣接していた(D6にいた)ものとします。

移動の例 : アメリカ軍F分隊はD5へ進入するのに2MFを消費し、E6へ進入するには2.5MFを消費します (COT+1MF)。

LOSの例 : 一般に、生け垣ヘクスサイドの直後にあるヘクスを見ることはできませんが、そのヘクスを越えた先を見ることはできません。ドイツ軍E分隊はドイツ軍D分隊を見ることができませんが、ドイツ軍C分隊を見ることはできません。これはLOSが生け垣ヘクスサイドを通過するのではなく、その上を沿っている場合も同様です。ゆえに、ドイツ軍B分隊はアメリカ軍H分隊を見ることができませんが、アメリカ軍I分隊を見ることはできません。アメリカ軍F分隊がE6へ移動してきても、ドイツ軍K分隊は (LOSがB2-C2ヘクスの足に沿っているにもかかわらず)、C2/C3およびB2/C3のヘクスサイドがすべて生け垣であるために、それを見ることはできません(生け垣を挟んで反対側の頂点を成す、3本のヘクスの足全部が生け垣だからです)。



戦闘の例 : ドイツ軍B分隊は、アメリカ軍J分隊からの射撃に、生け垣の+1TEMを受けます。

ドイツ軍B分隊は、アメリカ軍H分隊からの射撃に、生け垣の+1TEMとC3およびE4から果樹園の妨害(合計+2DRM)を受けます。これはドイツ軍B分隊がアメリカ軍H分隊を射撃したときも同様です。

アメリカ軍F分隊が迫撃砲を所有していたとします。ドイツ軍E分隊に迫撃砲で射撃したなら、生け垣TEMは適用されませんが、固有火力の射撃には適用されます(どちらの場合も、麦畑の妨害は受けません; 麦畑は全域地形ではありません)。

ドイツ軍A分隊がB6へ移動し、そこでアメリカ軍F分隊の迫撃砲により臨機射撃された場合、TEMは適用されませんが、FFMOも無効となります。

確保 (Wall/Hedge Advantage ; WA) の例 : ドイツ軍A分隊は、アメリカ軍G分隊からの射撃に対して生け垣の+1TEMを適用できます; またC7もしくはD6 (両方ではない)の妨害DRMも適用されます。しかし、アメリカ軍F分隊からの射撃には生け垣のTEMを適用できません。なぜなら、分隊Fが分隊Aよりも先に生け垣の一方の側にいたからです。すなわち、分隊Fは分隊Aに対して生け垣を『確保』して (WAを有して) いるのです。ドイツ軍分隊EがC6に移動してきた場合、アメリカ軍分隊Fからの臨機射撃に対しては生け垣のTEMを適用できず、よってFFMOの対象となります。分隊FとGが射撃グループを作ってヘクスC6を射撃するなら、生け垣のTEMが適用され、さらにC7もしくはD6 (両方ではない)の妨害DRMも適用されます (臨機射撃だとしてもFFMOの対象外となります)。なぜなら、射撃グループ内のユニットのLOSによって適用されるTEMや妨害DRMが異なる場合、最もDRMが大きいものが適用されるからです。

アメリカ軍分隊Fが混乱したら、WAは直ちにドイツ軍分隊Aのものになります。その後アメリカ軍分隊GがヘクスD6へ移動したとしても、WAはドイツ軍分隊Aが有しており、よって分隊AからヘクスD6への射撃には生け垣のTEMは適用されません。